

# 大学児童教育学科 50 年の歩み

－ 教員組織と教育課程の変遷－

渡邊 均

## はじめに

2023 年度入学生より、新たな教育課程による児童教育学科の教育がスタートした。これは、2019 年度より全学的にその見直しに取り組み、実に 4 年間の入念な作業工程を経て整えられたものである。この度の教育課程の再編は、2008 年以降の「学士課程教育の再構築」や「質保証」といった大学教育を取り巻く時代の要請に突き動かされてのものであった。掲げられた全学的な 3 つの方針「学修者本位のカリキュラムへ」「単位制度を実質化するカリキュラムへ」「責任を持って授業科目を提供するカリキュラムへ」に対して児童教育学科は真摯に取り組み、その成果として新教育課程に結実させた。

教育課程の再編が無事に成し遂げられ、スタートを切った今年、1974 年に児童教育学科が短期大学部から 4 年制の大学・学部組織に組み込まれて以来、満 50 年の節目を迎えるにあたり、本誌特集「大学児童教育学科 50 年」が編纂される運びとなった。そしてそこに「大学児童教育学科 50 年の歩み」を主題として寄稿する機会を得た。今回の教育課程の見直しでは、先に示した教学マネジメントの王道とも言える 3 方針に集中して真摯に取り組むことに注力したが、それが「大学児童教育学科 50 年」の歩みの中であってどのような意味をもつ作業だったのか、この機会に、4 年制移行後の児童教育学科の教育課程の変遷と、それを支えた教員組織を今一度『学生便覧』により振り返り、新教育課程再編の意義を学科の歴史的な観点から確認することとした。

## I 文学部児童教育学科開設から 2000 年までの教員組織と教育課程

### I - 1. 1974 年度から 1984 年度までの教員組織と教育課程

#### 1) 教員組織

1974 年 4 月文学部児童教育学科開設。当時の児童教育学科専任教員は（以下、敬称略。表記は『学生便覧』による）村上寅次、中村弘、上野武、山崎剛、佐藤千代吉、

岩城富美子、堺太郎、森川和子、中川ノブ、古沢ユキエ、尾崎恵子で、計 11 名である。うち 5 名は教養課程や教職課程の科目も合わせて担当している。

次に科目構成について簡潔に示す。科目展開の規模感が把握しやすい小分類単位で科目数と単位数を示す。科目小分類は最も長期間使用された 1994 年以後の分類とする。

## 2) 1974 年度の教育課程（専攻科目）

1974 年当時の教育課程（専攻科目）は、以下のとおりである。

- ・後に「保育学」に分類される科目・・・6 科目 18 単位（当時は通年 4 単位科目が多数）
  - ・「福祉学」・・・6 科目 22 単位
  - ・後に「健康学」に分類変更される科目・・・5 科目 12 単位
  - ・「保育内容の研究（指導法）」・・・7 科目 14 単位
  - ・「保育実習」・・・3 科目 8 単位
  - ・「教育学」・・・8 科目 32 単位（後に当該カテゴリーに分類変更される「保育行政制度」「家庭教育学」「比較教育（幼児）」の 3 科目 12 単位を含む）
  - ・「心理学」・・・9 科目 36 単位
  - ・「教育実習」・・・1 科目 6 単位
  - ・後に「教科研究に関する科目（教科の内容）」に分類変更される科目  
・・・11 科目 24 単位
  - ・後に「演習・卒業論文に関する科目」に分類変更される科目・・・2 科目 12 単位
- 計 58 科目 184 単位

その後、1985 年の 3 月までに 4 名の教員（佐藤千代吉、村上寅次、古沢ユキエ、中村弘）が退職、1977 年 4 月に笠文七、1978 年 4 月に門田見昌明、1984 年 4 月に松永裕二、瀬川啓子、米谷光弘の計 5 名が着任した。同年度までのほぼ 10 年間で教育課程における変化は、科目小分類の変更と単位分割および科目名変更に残っている。

## I - 2. 1985 年度小学校教員養成課程設置～教養部廃止（1986）から

### 一般教育課程課程廃止（1994）までの教員組織と教育課程

#### 1) 教員組織

1985 年 4 月小学校教員養成課程設置。当時の児童教育学科専任教員は上野武、山崎剛、岩城富美子、堺太郎、森川和子、中川ノブ、尾崎恵子、笠文七、門田見昌明、松永裕二、瀬川啓子、米谷光弘（敬称略）で、計 12 名である。このうち 4 名が教養課程や教職課程の科目を合わせて担当している。

また、小学校教員養成課程を設置するにあたり、教養部（一般教育課程）所属の以下の教員が、加わるようになった。菱谷晋介、井上哲雄（以上、教育心理学）、山中耕作（国語）、西嶋幸右、磯望（以上、社会）、藤野力（算数）、台信達二、唐木田芳文、佐々木直井、松村敬治（以上、理科）、森美智子（図画工作）、山崎勇視、森本利和、野本益寛、日野和明（以上、体育）で15名である。

## 2) 1985年度の教育課程（専攻科目）

1985年当時の教育課程（専攻科目）は、以下のとおりである。

- ・後に「保育学」に分類される科目・・・6科目 14単位
  - ・「福祉学」・・・6科目 12単位
  - ・後に「健康学」に分類変更される科目・・・5科目 10単位
  - ・「保育内容の研究（指導法）」・・・7科目 14単位
  - ・「保育実習」・・・3科目 8単位
  - ・「教育学」・・・11科目 34単位
  - ・「心理学」・・・13科目 34単位
  - ・「教育実習」・・・1科目 8単位（幼・小それぞれ4単位）
  - ・「教科研究」・・・33科目 60単位
  - ・「教材研究」・・・9科目 18単位
  - ・「演習・卒業論文」・・・2科目 8単位
- 計 96科目 220単位

従前の教育課程に比して、「教科研究」「教材研究」に含まれる科目は24単位から78単位(3.25倍)に増加しているが、他の部分での単位の圧縮は14単位減程度に留まっている。

その後、小学校教員養成課程の設置に参画した教員のうち、森川和子は1年間で、中川ノブ、山中耕作、台信達二、西嶋幸右、森美智子の5名は2年間で、笠文七は3年で退職を迎えたが、1986年の教養部の廃止後に、高野一宏（体育）、山崎喜代子（理科）、そして1987年に測上継雄（青年心理学）、福島芳明（音楽）、坂口りつ子（家庭）、大濱順彦（理科）、工藤博子（国語）らが加わり、養成課程は一般教育担当の協力を得て維持された。1993年度には、主に児童教育学科および全学教職課程担当の尾崎恵子、上野武、堺太郎、門田見昌明、松永裕二、瀬川啓子、米谷光弘、井上哲雄、坂口りつ子、測上継雄、生野金三、藤田尚充、中尾孝義、田代裕一、平島邦夫、田中孝志の16名に、一般教育担当の唐木田芳文、菱谷晋介、佐々木直井、山崎勇視、森本利和、野本益寛、日野和明、藤野力、磯望、松村敬治、高野一宏、山崎喜代子、工藤

博子、大濱順彦、安楽和夫、中村奈良江、D.A.Johnson の 17 名を加えた 33 名が参画している状態にまで拡大した。

### 1 - 3. 1994 年度から 2000 年度の学科教員組織と教育課程

#### 1) 教員組織

1994 年度には大学設置基準の大綱化により教養組織（一般教育課程）の設置義務が無くなったことで、『学生便覧』上でも全ての専任教員が学科に所属するものとして記載されることになった。1994 年度の『学生便覧』には児童教育学科の教員組織一覧が掲載されていないので、1995 年版でその内容を確認したい。児童教育学科教員は、その時点で、1993 年に児童教育学科の専門教育に参画していた教員のうち、唐木田芳文と工藤博子を除き、中馬充子を加えた 32 名体制となっている。

#### 2) 1994 年度の教育課程（専攻科目）

1994 年当時の教育課程（専攻科目）は、以下のとおりである。

- ・「保育学」・・・7 科目 14 単位
- ・「福祉学」・・・8 科目 16 単位
- ・「健康学」・・・5 科目 10 単位
- ・「保育内容の研究（指導法）」・・・9 科目 18 単位
- ・「保育実習」・・・4 科目 9 単位
- ・「教育学」・・・14 科目 34 単位
- ・「心理学」・・・16 科目 32 単位
- ・「教育実習」・・・6 科目 11 単位（幼・小それぞれ 5 単位）
- ・「教科研究」・・・47 科目 84 単位
- ・「教材研究」・・・9 科目 18 単位
- ・「演習・卒業論文」・・・4 科目 14 単位

計 129 科目 260 単位

「保育学」で +2 単位、「福祉学」で +4 単位、「保育内容の研究（指導法）」で +4 単位、「保育実習」で +1 単位、「心理学」で -2 単位、「教育実習」で +3 単位、「教科研究」で +24 単位、「演習・卒業論文」で +6 単位の増減となっている。

1994 年度以降の児童教育学科の教員組織は退職に伴う補充人事を適切に行うことで推移した。1995 年度末に尾崎恵子、菱谷晋介の退職の後、1996 年に黒木重雄が専任教員として着任した（総数 31 名）。1996 年に門田見昌明、中尾義孝の退職の後、1997 年にそれぞれ吉岡直子、松田時彦が着任した。1998 年に平島邦夫が退職した後、

直ちに補充されることはなかった（総数 30 名）。1999 年に坂口りつ子の退職の後、2000 年に西野祥子が着任した。

## II 文学部児童教育学科から人間科学部児童教育学科へ～その教員組織と教育課程

### II - 1. 教員定数再配分（1999 年）の衝撃

#### 1) 「99 年新定数」とは

以上のように推移する中、児童教育学科に激震が走る事態が 1998 年に生じた。「99 年新定数」による教員定数の再配分である。

これは、学長の諮問に基づき、特別委員会を設置して繰り返し議論を重ね、第 3 回の答申をもって一定の結論に達したものである。当該答申のその後の取り扱いについては、当時、その内容に繰り返し異議が唱えられていた部分を残していたため、その内容に関し連合教授会にて承認手続きを採るところまでには至らなかった。しかしながら、以後の教員定数の取り扱いは当該答申を起点としており、繰り返しその後も検討小委員会が設置され、2004 年、2013 年、2017 年と見直されているところから、実質的には長い期間をかけ追認されてきたものと判断することができる。

その内容のうち児童教育学科にかかわるところは以下のような内容であった。これは当時抱えていた教員定数から 8 名の削減を迫るもので、学科としてはあまりに唐突に危機に晒されるものであった。

#### 2) 「99 年新定数」で示された児童教育学科教員定数

児童教育学科専門教員・・・10 名

全学教職課程担当教員・・・4 名

共通科目自然科学担当教員・・・5 名

共通科目スポーツ科学担当教員・・・4 名 合計 23 名

この 8 名減の提示（その後 8 名、退職補充無しとなることを意味する）が、その後の学科改組、すなわち社会福祉学科設置に突き動かし、さらに継続して学部改組、心理学科設置に至らしめることとなったのである。

### II - 2. 学科改組・学部改組を経た後の教員組織と教育課程

2001 年度社会福祉学科設置、2012 年度心理学科設置他、学部・学科改組及び収容定員増による教員定数の変動について、以下順に掲載する。

- 1) 2001 年社会福祉学科新設に伴う教員組織(定数配分:定数外の特任教員 2 名を含む)  
・児童教育学科・・・学科専門教員・・・10 名

(磯望、中村奈良江、瀬川啓子、生野金三、田中孝志、米谷光弘、  
西野祥子、黒木重雄、吉岡直子、渡邊均)

・・・全学教職課程担当教員・・・3名

(藤田尚充、松永裕二、田代裕一)

・・・共通科目自然科学担当教員・・・5名

(安楽和夫、藤野力、松田時彦、松村敬治、大濱順彦)

・・・共通科目スポーツ科学担当教員・・・4名

(山崎勇視、日野和明、中馬充子、高野一宏)

計 22 名

・社会福祉学科・・・学科専門教員・・・14名

・・・全学教職課程担当教員・・・1名

・・・共通科目担当教員・・・1名

(共通科目自然科学とスポーツ科学担当教員4名のうち3名  
は学科専門に吸収)

計 16 名

社会福祉学科新設に伴い、瀧上継雄、井上哲雄、D.A.Johnson、森本利和、野本益寛、  
堺太郎、山崎喜代子の7名が社会福祉学科に移籍することとなった。

2) 2012年心理学科新設に伴う教員組織(定数配分:定数外の特別教員1名を含む)

・児童教育学科・・・学科専門教員・・・11名

(深谷潤、古田雅憲、磯望、門田理世、黒木重雄、西野祥子、  
瀬川啓子、渡邊均、米谷光弘、吉岡直子、鹿島なつめ)

・・・全学教職課程担当教員・・・3名

(藤田尚充、松永裕二、田代裕一)

・・・共通科目自然科学担当教員・・・4名

(安楽和夫、藤野力、松村敬治、塩野正明)

・・・共通科目スポーツ科学担当教員・・・1名

(高野一宏)

計 19 名

・社会福祉学科・・・学科専門教員・・・14名

(「99年新定数」時の共通科目自然科学、スポーツ科学担当  
教員計4名はすべて学科専門に吸収)

計 14 名

・心理学科 . . . 学科専門教員 . . . 10 名

(全学教職課程担当教員 . . . 1 名、共通科目スポーツ科学  
担当教員 1 名は学科専門に吸収)

計 10 名

心理学科新設に伴い、児童教育学科からは中村奈良江、田中孝志、續木智彦の 3 名  
が心理学科に移籍した。また、中馬充子が同時に社会福祉学科に移籍することとなっ  
た。

3) 心理学科完成後の全学収容定員に基づく教員定数の見直し (定数増: 2014 年)

・社会福祉学科 . . . 1 名増員 (全学教育) ※共通科目自然科学教員定数 1 の復活  
として使用

・心理学科 . . . 1 名増員 (学科専門)

4) 全学収容定員増に基づく教員定数の見直し (定数増: 2017 年)

・心理学科 . . . 1 名増員 (全学教育) ※共通科目スポーツ科学教員定数 1 の  
復活として使用 (推定: 後に全学教職課程教員定数として復  
活させていないため)

5) 2001 ~ 2022 年度まで維持された教育課程

2022 年度の教育課程 (専攻科目) は、以下のとおりである。

- ・「保育学」 . . . 7 科目 13 単位
- ・「福祉学」 . . . 7 科目 13 単位
- ・「健康学」 . . . 3 科目 5 単位
- ・「保育内容の研究 (指導法)」 . . . 9 科目 18 単位
- ・「保育実習」 . . . 5 科目 11 単位
- ・「教育学」 . . . 20 科目 40 単位
- ・「心理学」 . . . 18 科目 35 単位
- ・「教育実習」 . . . 6 科目 11 単位 (幼・小それぞれ 5 単位)
- ・「教科研究」 . . . 49 科目 82 単位
- ・「教材研究」 . . . 10 科目 20 単位
- ・「演習・卒業論文」 . . . 4 科目 14 単位

計 138 科目 262 単位

「保育学」で-1単位、「福祉学」で-3単位、「健康学」で-5単位、「保育実習」で+2単位、「教育学」で+6単位、「心理学」+3単位、「教科研究」で-2単位、「教材研究」で+2単位の増減となっている。

### Ⅲ 児童教育学科 50 年における組織・教育課程の改編がもたらしたもの

#### Ⅲ - 1. 3 つの養成課程と共通教育科目への貢献を堅守する教員編制方針

以上確認してきたように、1) 主要な出来事としては1985年度からの小学校教員養成課程の設置、2) 翌年の教養部の解体、3) 1986年以降、一般教育課程教員の学科所属、4) 1999年の教員定数変更、5) 2001年の社会福祉学科開設に伴う改組、6) 2012年の心理学科設置に伴う改組と、教育課程の改造と共に教員組織の再編制という細心の注意を要する事案を乗り越えてきた。50年のうち1999年までの前半の25年は、幼稚園・小学校教員養成課程の設置による教育組織の拡大を教養部や一般教育課程担当の教員の協力を得て成し遂げ、後から振り返ればさらなる発展の機会を慎重に見定めていた時期と言えるものであったかもしれない。

1998年にまとめられた教員定数の再配分案「99年新定数」は、そうした児童教育学科を否応なく改組に向かわせるに十分な端緒を与えた。それを受けて児童教育学科は、その後の25年を学科・学部の改組・新設を主導しながら、同時に、自学科の教員定数の減員が進行する中で学科と全学の教育課程を崩壊させないために、教員組織の編制方針を新たに固めていった。児童教育学科には「3つの養成課程の維持と共通教育科目への貢献」という教員組織編制上の厳しい制約条件が存在する。新規の採用の度に対応を繰り返す中で、ある程度のバックアップ要員も確保可能な学科教員組織の編制方針を固めてきている。現状を反映した私案に過ぎないが、2022年度の時点で要約した表を次頁に掲載する。





【児童教育学科の教員組織編制】

科目・専門分野	保	幼	小	職	共	備 考
教育理念と歴史、道徳教育	○	基	基			幼小：教育の基礎的理解
子どもの発達と学習	○	基	基			幼小：教育の基礎的理解
教育方法論	○	方				幼：道徳、総合等の指導法及び・・・を中心に幼全般
音楽科指導法、総合	○		方			小：道徳、総合等の指導法及び・・・を中心に小全般
幼児と健康	○	領				幼：保育内容の指導法及び領域の専門的事項(健康)
幼児と人間関係、保育内容	○	指				幼：保育内容の指導法及び領域の専門的事項(人間関係)
家庭科指導法、食と栄養	○		指			小：教科の指導法、教科の専門的事項
国語、幼児と言葉	○	領	教			幼：領域の専門的事項、小：教科の専門的事項
算数、基礎数学			教		◎	共通自然（数学）、小：教科の専門的事項
理科、基礎物理学					◎	共通自然（物理）
理科、基礎化学			教		◎	共通自然（化学）、小：教科の専門的事項
生活科、地球科学、地理学	○		教		◎	幼：領域の専門的事項、小：教科の専門的事項、共通自然
音楽基礎、幼児と表現	○	領	教			幼：領域の専門的事項、小：教科の専門的事項
造形基礎、幼児と表現	○	領	教			幼：領域の専門的事項、小：教科の専門的事項
ヘルスリテラシー、体育概論					◎	共通スポーツ科学
外国語科（英語）指導法			指			小：教科の指導法、教科の専門的事項
教職 C	教育の制度と経営				基	中高：教育の基礎的理解
	教育の課程と方法				方	中高：道徳、総合等の指導法及び・・・を中心に小全般
	教育相談				方	中高：道徳、総合等の指導法及び生徒指導、教育相談
	社会科指導法				指	教科の指導法

※表中の「基」は「教育の基礎的理解」、「方」は「教育方法」、「指」は「指導法」、「領」は「領域の専門的事項」、「教」は「教科に関する専門的事項」に関する科目の略。

### Ⅲ - 2. 教育課程見直しの3つの方針に則して真摯に科目を厳選し再編した教育課程

#### 1) 50年間での科目数・単位数の変遷

今回の教育課程の見直しでは、それまでの児童教育学科約50年の歴史の中で初めてと言って良い「科目の精選・再設置」が中心的な課題のひとつとなった。本学は、科目設置に関しては機会ある度に「スクラップ・アンド・ビルド」が唱えられるだけで、総量を規制するための実効性のある取り組みはこれまで何ら施されることは無かった。担当する教員の専兼比率に関しても遵守を求めるようなガイドラインは無い。

加えて教員の就業規則や責任担当時間に関する規程等の関係から自ずと科目数・クラス数が膨らみ易い仕組みとなっている。その結果、別表の通り、50年という時の経過の中で著しい設定科目・単位数増を招いてしまっていた。

【科目数・単位数比較（一覧）】

科目分類 (1994年度以降)	1974年度		1985年度		1994年度		2022年度		2023年度	
	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位
保育学	6	18	6	14	7	14	7	13	7	13
福祉学	6	22	6	12	8	16	7	13	5	9
健康学	5	12	5	10	5	10	3	5	3	5
保育内容の研究（指導法）	7	14	7	14	9	18	9	18	8	16
保育実習	3	8	3	8	4	9	5	11	5	11
教育学	8	32	11	34	14	34	20	40	12	24
心理学	9	36	13	34	16	32	18	35	4	7
教育実習	1	6	1	8	6	11	6	11	5	9
教科研究	11	24	33	60	47	84	49	82	27	43
教材研究（指導法）	0	0	9	18	9	18	10	20	15	30
演習・卒業論文	2	12	2	8	4	14	4	14	4	13
計	58	184	96	220	129	260	138	262	95	180
教員数	11		11+14		32		19		19	

## 2) 教育課程再編成（2019～2022年度）への取り組み概要

まず、全学的に共通の考え方に基づいて教学マネジメントを推進する必要性から、卒業認定・学位授与方針などいわゆる3つのポリシーの再策定に1年半をかけ、そして2020年の後期からは、各養成課程の教育課程編成基準の確認、そして2021年度は「学修者本位」の教育課程の構築に向け、カリキュラム・マップ、ツリー、ナンバリング、履修モデルなど、編成作業上有益な各種オーガナイザーを用いた実際の科目の精選作業に取り組んだ。実に4年間の作業を経て、3つの方針から、各種オーガナイザーにより裏付けられた教育課程が整えられた。専攻科目数は旧教育課程に比べてほぼ2/3に圧縮された。

教学マネジメント上の著しい成果にも見えるが、裏を返せば、それ程までに見直されるべきものを抱えていたとも言えよう。旧教育課程の原型は、1991年の大学設置基準の大綱化後、一般(教養)教育組織の解体に伴う教員組織及び教育課程再編を経て、1994年度の新学期として整備されたものである。以来約30年間、その途上では学科・学部の改組を繰り返すうち、学科所属教員が1994年当時の32名から（2012年には）19名に減員されていたにも関わらず、それに見合った教育課程の整理は、此度の機

会を待つほか無かったのである。

### 3) 2023 年度の教育課程（専攻科目）

2023 年度施行教育課程（専攻科目）は、以下のとおりである。

- ・「保育学」・・・7 科目 13 単位
  - ・「福祉学」・・・5 科目 9 単位
  - ・「健康学」・・・3 科目 5 単位
  - ・「保育内容の研究（指導法）」・・・8 科目 16 単位
  - ・「保育実習」・・・5 科目 11 単位
  - ・「教育学」・・・12 科目 24 単位
  - ・「心理学」・・・4 科目 7 単位
  - ・「教育実習」・・・5 科目 9 単位（幼・小それぞれ 5 単位）
  - ・「教科研究」・・・27 科目 43 単位
  - ・「教材研究」・・・15 科目 30 単位
  - ・「演習・卒業論文」・・・4 科目 13 単位
- 計 95 科目 180 単位

前年度までと比べ、「福祉学」－4 単位、「保育内容の研究（指導法）」－2 単位、「教育学」－16 単位、心理学－28 単位、「教育実習」－2 単位、「教科研究」－39 単位、「演習・卒業論文」－1 単位の減となっている。

同時に共通科目の編成（基幹教育科目群、教養科目群、外国語）の見直しも全学的に行った、そして学生の履修行動を大きく左右する卒業要件に占める共通科目の単位数設定（最低 28 単位）など、根本的な要件の見直しまで行った。その詳述は紙幅の都合もあり避けるものの、これにより、免許・資格の取得に関わる各養成課程の要件単位数も、それぞれの免許・資格で求められている最低基準に近づけられ、従来からの免許資格取得の困難さは大きく解消された。

## おわりに

主題「大学児童教育学科 50 年の歩み」は、本誌企画及び原稿依頼が届けられた際に「案」として掲げられていたものである。現在の所属教員のみならず、また過去に所属された諸先輩に企画側でも打診されたとのことであるが、ご承諾頂くのも難しかったことが推察される。長い時の経過を振り返る主題（案）で、あまりに漠とし過ぎていく感是否めない。当然、筆者自身もどのようにアプローチすべきか、書き始めてはみるものの、挫折する日々が続いた。

「大学児童教育学科 50 年の歩み」と言ってもその児童教育学科は、1998 年から 1999 年の定数再配分を境として正常な成熟・発展から大胆な外科的手術を伴うような改造・改組、すなわち 3 学科による人間科学部へと大きく姿を変えることとなった。当然そのことを抜きにして、学科のみについて後半の 25 年を語れるはずが無い。前半の 25 年を合わせると組織の急拡大の後、後半の 25 年で新たな教育分野の独立に寄与し、自らは教育組織の縮小の中で強靱な組織とすべく経験と知恵を蓄えてきた学科である。そこで、教員組織内で最も厳しいせめぎ合いが生じる「教員組織と教育課程の変遷（副題）」を取り出し、50 年の大きなうねりの中で生じたこと、そしてその経験と知恵の結晶としての教員組織の編制方針と新教育課程（2023 年度）についての記録を、当該アーカイヴズに残すこととした。

なお、今回教員組織と教育課程を辿る作業は『学生便覧』を基にした。本学においては人事や組織上の位置付けと教育課程運営上の取り扱いが、過去においては必ずしも整合していない場合もしばしば見られた。そうした事情を内包しながら、便宜的に整理した部分があることについてはご容赦いただきたい。

私立大学をめぐる環境は大変厳しくなりつつある。この 50 年間で児童教育学科が経験した教員組織と教育課程に関わる大きな変化は、厳しい環境の変化の中で本学が教学マネジメントを適正に推進しながら主体的に活路を見出していく方法について、示唆に富む情報を提供してくれるものに違いない。学科改組、3 学科体制での学部独立がもたらした経験と知恵を、引き続きこれからも児童教育学科、人間科学部、そして大学全体の中で受け継いでいくことができるよう尽力したい。

## 【参考資料】

・『学生便覧』 西南学院大学 1974～2023 年

氏名	科目名・分野等/西暦	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	
佐藤千代吉	教育社会学・保育行政制度																						
村上 寅次	教育原理・教育史																						
古沢ユキエ	音楽(器楽)・音楽リズム																						
中村 弘	教育心理学・青年心理学																						
森川 和子	音楽(声楽)																						
白樫三四郎	社会心理学																						
中川 ノブ	小児栄養学・乳児保育																						
山崎 剛	幼児体育																						
岩城富美子	児童心理学																						
尾崎 恵子	絵画工芸																						
上野 武	教育哲学																						
堺 太郎	児童福祉学																						
笠 文七	国語学概論・児童文学																						
門田見昌明	教育行政学																						
松永 裕二	比較教育学																						
瀬川 啓子	器楽(ピアノ)																						
米谷 光弘	幼児健康学																						
唐木田芳文	地学概論																						
森本 利和	スポーツ科学(柔道)																						
野本 益寛	スポーツ科学(野球)																						
山崎 勇視	スポーツ科学(ラグビー)																						
台信 達二	物理学																						
山中 耕作	国語表現学																						
日野 和明	スポーツ科学(空手)																						
藤野 力	数学																						
佐々木直井	生物学																						
菱谷 晋介	認知心理学																						
松村 敬治	化学																						
西嶋 幸右	歴史学																						
磯 望	地理学																						
森 美智子	美術概論																						
井上 哲雄	児童臨床心理学																						
高野 一宏	スポーツ科学(剣道)																						
山崎喜代子	生物学																						
福島 芳明	音楽・音楽教育																						
工藤 博子	国語表現学																						
坂口りつ子	家政学																						
週上 継雄	福祉臨床心理学																						
大濱 順彦	物理学																						
生野 金三	国語教育																						
藤田 高光	社会科教育																						
中尾 義孝	絵画工芸																						
田代 裕一	教育方法学																						
安楽 和夫	数学																						
平島 邦夫	音楽																						
D.A.Johnson	生物学																						
中村奈良江	認知心理学																						
田中 孝志	教育心理学																						
中馬 光子	スポーツ科学(卓球)																						
黒木 重雄	絵画表現																						
松田 時彦	地球科学																						
吉岡 直子	教育行政学																						
西野 祥子	家政教育学																						
渡邊 均	音楽教育学・声楽																						
門田 理世	乳幼児教育学																						
深谷 潤	教育哲学																						
古田 雅憲	国文学・国語学																						
塩野 正明	物理学																						
續木 智彦	スポーツ科学(サッカー)																						
鹿島なつめ	発達心理学																						
川上 具美	地歴科教育、社会科教育																						
倉元 綾子	家政学																						
藤永 豪	地理学																						
中尾かおり	年少者言語教育																						
平松 愛子	器楽(ピアノ)																						
細川 美幸	保育学・乳幼児教育学																						
田中 理絵	教育社会学																						
雪丸 武彦	教育行政学																						
山本 孝司	教育哲学																						

小学校教員養成課程設置

教養部廃止

一般教養課程廃止

所属及び科目担当 ■ 児童教育及び全学教職科目の学科 ■ 全学教育及び他学科の主担当

